

## 小・中学校の各教科等の改善に関する検討状況について（第3期教育課程部会への報告資料をもとに作成）

	【①課題】	【②目標・内容】	【③具体的改善事項の例】
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際的な学力調査の結果から、文章や資料の解釈、熟考・評価や、論述形式の設問に課題があるなど、読解力が低下傾向</li> <li>○ 文章を深く読んで分析的に理解してその上で記述する設問で正答率が低下</li> <li>○ 漢字の定着が不十分</li> <li>○ 敬語の使い方の間違いが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実生活や実社会で必要な言語能力や、言語文化に親しむ態度などの育成を重視</li> <li>○ 「言語の技能」「言語の知識」「言語の文化」「言語の活用」の4つの視点から改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 我が国の言語文化を享受し、継承・発展させるために、小学校において易しい古文や漢文の音読や暗唱を重視</li> <li>○ 学年別漢字配当表以外の常用漢字についても必要に応じて振り仮名を用いるなど、早い段階から児童生徒が読む機会を持つように改善</li> <li>○ 相手や場に応じた言葉遣いが適切にできるよう敬語等の指導を充実</li> <li>○ 書写の指導は、実生活や学習場面に役立つよう、内容や教材、指導の在り方を改善</li> <li>○ 我が国で長く読まれ親しまれている古典や近代以降の作品なども、発達段階に応じて教材へ選定</li> <li>○ 読書活動の一層の充実、指導内容の明確な位置付け</li> <li>○ 日常生活に必要とされる技能としての、対話、記録、要約、説明、感想などの言語活動を継続的に指導</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PISA型読解力の向上に対応する改善を図る必要があり、改善案の4つの視点を示すだけでなく、目標・内容においてより具体的に対応すべき。</li> <li>○ 現行の学習指導要領では文法の記述が弱いため、基本的な文法の定着を体系的に図る必要。</li> <li>○ 現行の学習指導要領では表現し理解するとあるが、理解し表現するという順序性を踏まえるべきではないか。</li> <li>○ 最低限必要と考えられる教材として、共通教材を考えていく必要。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な知識や概念が十分に身に付いていない</li> <li>○ 現行学習指導要領では、知識・技能の活用に関する記述が少ない</li> <li>○ 社会に積極的に参加し課題を解決していくことができる力を身に付ける必要</li> <li>○ 我が国の伝統、文化、歴史に関する教育が重要</li> <li>○ 小・中学校社会科で世界に関する内容が減少しており、世界の地理や歴史に関する内容を充実させる必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校段階の特質に応じて、学習する知識や概念を明確化</li> <li>○ 資料からの情報の読み取り、社会的事象の解釈、説明、論述を重視</li> <li>○ 空間軸、時間軸、社会システム（政治、経済、法など）の観点から整理・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広い視野から地域社会への理解を一層深めるため、中学年の内容を再構成し、目標及び内容を学年ごとに分けて示す（小学校）</li> <li>○ 国家・社会の形成者の育成のため、我が国の伝統、文化に関する内容を一層重視（小学校）</li> <li>○ 社会経済システムの高度化・複雑化へ対応のため、法、経済などに関する内容の充実、課題追求的な学習を一層重視（中学校）</li> <li>○ 地理的分野で、世界各地の人々の生活・文化と自然環境や社会環境とのかかわりなどについて学ぶ項目を設置（中学校）</li> <li>○ 現代社会がどのように形成されてきたかという観点から、近現代を重視（中学校）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都道府県名など基本的知識はしっかり教える必要。</li> <li>○ 日本は海洋国家であり、小学校では、領土だけでなく海洋についてもきちんと教える必要。</li> <li>○ お金の流れ、民主主義など改善内容の記述があいまいな部分が多く、改善する教育内容を明確化し限定すべき。</li> <li>○ 戦後、日本の歴史や文化についての指導が不十分であったのではないかと。充実する必要。</li> <li>○ 現在、法律を学ばないまま社会に出ているので、法教育は必要。具体的にどのような法律を教えるのか検討すべき。知識だけの暗記にならないようにする必要。</li> <li>○ 前回改訂において、小学校3、4年生の学習指導要領の記述を統合したのには理由があった。今回の改訂でなぜ分けるのか、理由を明確にすべき。</li> <li>○ 小・中・高校を見通して、何をいつ学ぶのかを整理する必要。</li> <li>○ 今日のニュースが歴史になることを教えるため、新聞をもっと授業に取り入れてはどうか。</li> <li>○ 暗記中心のテストが問題であり、レポートで論述をさせ、評価を行うことにしてはどうか。</li> <li>○ 社会福祉や防災の観点も社会科には必要。</li> <li>○ 公民分野は民主主義、自由と平等などの用語を暗記するだけでなく、自由とは何か、平等とは何かということを考える指導が必要。</li> <li>○ 中学校の社会科における世界の各地域の宗教の特色や宗教の社会生活における役割に関する指導を充実する必要。</li> </ul>		

<p>算数 数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算の意味を理解することなどに課題</li> <li>○ 知識や技能を実生活や学習等で活用することが不十分</li> <li>○ 事柄や場面を数学的に解釈すること、数学的な見方や考え方を生かして問題を解決すること、自分の考えを数学的に表現することなどに課題</li> <li>○ 具体的な場面を設けての問題解決の指導や、計算などで複数の学年で継続して指導することが重要</li> <li>○ 数量や図形についての作業的活動や体験的活動など、より多くの実践例を工夫し、活動のねらいをより明確にすることが必要</li> <li>○ 数学で学ぶ内容に興味のある生徒の割合や、算数・数学の勉強を楽しいと思う児童生徒の割合が国際平均値より低い</li> <li>○ 小学校第6学年から中学校第1学年にかけて、算数・数学を「好き」と回答する児童生徒の割合が低下</li> <li>○ 算数・数学を学ぶことの意義や有用性、社会全般における数学の果たす役割についての認識を高めることが課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着</li> <li>○ 根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えるなど数学的な思考力の育成</li> <li>○ 算数・数学を学ぶことの意義や有用性を実感させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年間や学校段階間でスパイラルな教育課程を構成し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着</li> <li>○ 言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを用いて説明・表現する指導の充実</li> <li>○ およその数を見積もるなど、数量や図形についての豊かな感覚を育成する指導を充実</li> <li>○ 児童生徒が主体的に取り組む算数的活動や数学的活動を生かした指導を一層重視し、「活動に関する領域」(仮称)を新設</li> <li>○ 実社会・実生活との結び付きが深い、統計に関わる内容(確率を含む)をまとめた領域「資料の活用」(仮称)を新設</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PISAやTIMSSの結果の分析を教育課程に反映する必要がある。</li> <li>○ 子どもの年齢に応じてこの程度でいいのではないかと、大人が内容を制限するのはやめたほうがよい。</li> <li>○ 反復練習により、計算力の強化を図るべき。</li> </ul>			
<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理科の学習が大切だという意識が高くなく、理科の学習に対する意欲は低い</li> <li>○ 国民の科学に対する関心が低いことを踏まえ、生涯にわたって科学に関心を持ち続けられるように見直す必要</li> <li>○ 過去に比べて、理科の学習の基盤となる自然体験、生活体験が乏しい</li> <li>○ てこのつり合い、人体の構造、物質の状態変化、植物の種類などの基礎的な知識・理解が不十分</li> <li>○ 推論する問題、意味付けや関係付けを伴う説明活動に関する問題、グラフを読み取り考察する問題などにおいて、科学的な思考力・表現力が不十分、科学的に解釈する力や表現する力に課題</li> <li>○ 中学校の学習内容の順序が全国一律に規定されていることによる課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「実社会や実生活との関連」、「科学への関心を高めること」、「科学的な認識の定着」の視点を踏まえ、改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」などの科学の基本的な見方や概念を柱とした、小・中・高校を通じた理科の内容の構造化</li> <li>○ 科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、考察・説明・探究を充実</li> <li>○ 観察、実験や自然体験、科学的な体験を一層充実</li> <li>○ 理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会を持たせる観点から、実社会・実生活との関連を重視</li> <li>○ 持続可能な社会の構築が求められている状況に鑑み、環境教育の充実</li> <li>○ 小学校理科において、現行の内容区分(A区分：生物とその環境、B区分：物質とエネルギー、C区分：地球と宇宙)を新たに、(第1区分：物質・エネルギー(仮称)、第2区分：生命・地球(仮称))の2区分に見直し</li> <li>○ 中学校の指導内容の順序に関する規定については、学年の中での指導順序については、地域の特性等に応じて適宜扱うことができるようにする</li> <li>○ 観察・実験を重視するために、外部人材の活用、実験器具等の整備など人的・物的・時間的な面での充実が必要</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PISAやTIMSSの結果の分析を教育課程に反映する必要がある。</li> <li>○ 理科の学習内容が生活に役に立つことを気づかせるため、理科に関連する実体験を通して生活のどこに活用されているかを理解させるべき。</li> <li>○ 観察・実験、自然体験などを行うための時間的余裕が必要。</li> <li>○ 小学校理科の内容区分の見直しに当たっては、第2区分に生命、地球の他に宇宙の観点も必要であり、「生命、地球・宇宙」にしてはどうか。</li> </ul>		
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な語彙や文構造などが十分身に付いていない。内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力、聞いたことに対して応答するなどの表現する力が不十分</li> <li>○ 英語が大切だと考えている生徒は、他の教科に比べて多いのに、授業がわからなくなる生徒が多い。また、学年が進むにつれて英語が好きな生徒は減少、特に中学校3年生で、授業がわからなくなる生徒の割合が他の教科と比べて最も高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校において、学習指導要領の内容として、「言語・文化」を新設し、自国や郷土について理解を深め、英語で積極的に発信したり異文化理解を進めたりするとともに、語彙や文構造の定着に向けた学習を行う</li> <li>○ 中学校における義務教育修了段階の目指すべき目標として、例えば、1分間に150語程度の速さの標準的な英語を聞き取ることができることなど、数値等も用いて具体化</li> <li>○ 文法指導について、生徒がつまづく点等を分析して見直し（中学校）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な語彙や文法の定着とコミュニケーション能力の育成のバランスを図ることが必要。</li> <li>○ 英語で聞き取ったことを要約して書くという指導をしてはどうか。</li> <li>○ 現行の中学校の900語という語彙数については厳しく制限すべきではない。</li> <li>○ 検討素案の中学校の到達水準（1分間に150語程度の速さの標準的な英語を聞き取るなど）は難しいのではないか。</li> <li>○ 中学校で「言語・文化」の内容を新設することに関して、生徒の過重負担にならないように配慮すべき。</li> <li>○ 国語の漢字配当表のように、英語における基礎・基本とは何かを考えてほしい。</li> <li>○ 学年に応じて文法の内容を示すなど、文法指導の在り方を見直すべき。</li> <li>○ 小学校段階の英語教育の在り方については、中・高等学校における改善を見通して、教育条件の整備に関する課題を含め検討を進めることが重要である。旧来の読み書きを中心とした中学校の英語教育を前倒しするのではなく、小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、言葉への自覚を促し、幅広い言語力や国際感覚の基盤を培うことができるよう各学校で共通に指導する内容を更に具体的・専門的に検討する必要。</li> </ul>			
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを働かせる力、生涯にわたって音楽に親しむ態度の育成が必要</li> <li>○ 歌唱の活動に偏る傾向があり、創作と鑑賞の学習が不十分</li> <li>○ 我が国の音楽文化に愛着をもち、他国の文化を尊重できる態度等を養う必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成</li> <li>○ 生涯にわたって音楽文化に親しむ態度を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての音楽活動の支えとなる指導内容を[共通事項]として示す</li> <li>○ 生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を明るく潤いのあるものにする音楽の役割を実感させるような指導を重視</li> <li>○ 音楽に対して、根拠をもって自分なりに批評したりすることのできる力を育成する鑑賞の指導を一層充実</li> <li>○ 我が国の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、各学校段階の特質に応じて我が国や郷土の音楽の指導を一層充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文部省唱歌など長く歌い継がれてきた日本の歌を教材として取り上げることは重要。</li> <li>○ 能や歌舞伎などについても教えるべき。</li> <li>○ 雨の音などのいわゆる環境音を聴いて、音の感性を研ぎ澄ますという体験は重要であり、幼児教育から取り入れるべき。</li> <li>○ 楽器の材質による音の違いをとらえたり、品質と音の関係に気付いたりするような観点が大事。</li> <li>○ 演奏や合唱を通してみんなで一つの音楽を作っていくという体験は重要。</li> <li>○ 音楽については、ハーモニーの指導も重要。</li> <li>○ 日本の伝統音楽を重視するとともに、ヨーロッパなどの近代の芸術もきちんと教えることが必要。</li> </ul>			

<p>図画工作 美術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感性を働かせて思考・判断し、創意工夫をしながら表現、鑑賞するという一連のプロセスを働かせる力を育成する必要</li> <li>○ 児童の興味や関心を教師が資質や能力の向上に生かしていきれていない</li> <li>○ 生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり豊かにしたりする態度の育成が課題</li> <li>○ 感じ取ったことをもとに、自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意味、新しい美、自分を発見するなどの鑑賞の学習が必要</li> <li>○ 発達に応じて、我が国の文化等に関わる学習を通して、その継承や創造への関心を高め、諸外国の文化のよさを理解する必要</li> <li>○ 小・中学校の国語科の書写からの一層の円滑な接続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思考・判断し、表現する資質や能力を育成</li> <li>○ 美術文化について生涯を通じて親しむ態度を育成</li> <li>○ 中学校国語科の書写の学習との円滑な接続を図る観点から、「A表現」の中に具体的な書写にかかわる内容を位置付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 領域や項目などを横断して共通に働く資質や能力を整理し、[共通事項]として示す</li> <li>○ 形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする美術の働きを実感させる指導を重視</li> <li>○ 自分の思いを語り合ったり、批評し合ったりするなどして、自分なりの意味や価値をつくりだしていくような鑑賞の指導を重視</li> <li>○ 美術文化の継承と創造のため、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や我が国の美術や文化に関する指導を一層充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 祖父母と孫、親と子という世代間の融和を生み出すことにもなるので、日本の伝統文化継承の観点は大切。</li> <li>○ 図工の教科書には、指導の技術的な方法が示されておらず、教員の指導の技術を高めるような改善を図るべき。</li> <li>○ 子どもたちに写實的に描写する力が育っていないので、指導の充実が必要。</li> <li>○ 書写、書道については、情報化が進展する中で字を書くということに意味があるという観点も必要。</li> </ul>			
<p>家庭 技術・家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習した知識や技術などが実生活で十分生かされていないとの指摘</li> <li>○ 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていない状況から、家庭の在り方や家族の人間関係や子育てについての学習が必要</li> <li>○ 食生活の乱れや消費者トラブルの増加などから、食育や消費者教育の充実が課題</li> <li>○ 科学技術の発展や情報化の進展への対応を図ることが課題</li> <li>○ ものづくりを支える能力や技術、態度とともに、技術を評価・管理できる力の育成を目指すべきとの指摘</li> <li>○ 生徒一人一人が情報活用能力を確実に身に付けることが一層重要</li> <li>○ 情報通信ネットワークを使用した犯罪が多発する中、情報安全や情報モラル、マナー等の情報手段の特性や情報を適切に扱うための指導のより一層の充実を図る必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための実践力を育成</li> <li>○ ものづくりを支える能力を高めるとともに、科学技術や情報と社会や環境などのかかわりについての理解、技術を適切に評価・管理できる基礎的な能力を育成</li> <li>○ 情報活用の実践力、情報の科学的な見方・考え方、合理的判断力や創造的思考力、コミュニケーション能力や問題解決能力の育成を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭の在り方や家族の人間関係などの指導を一層重視</li> <li>○ 食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実</li> <li>○ 社会において主体的に消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実</li> <li>○ 「ものづくり」を支えるため、創造・工夫する力、計画的に仕事をやり遂げる責任感、勤労の観念や緻密さへのこだわりなどの育成を目指す学習活動を一層充実</li> <li>○ 情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度を確実に身に付けさせる指導の充実</li> <li>○ 心への影響、情報安全、情報モラル、マナー、知的財産の保護等の育成に係わる指導の改善・充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会で共に生きること、実社会との関わりなどを観点として強調してはどうか。</li> <li>○ 家庭科では、家族とのかかわりを強調して親子の共同体験を盛り込んではどうか。</li> <li>○ 環境問題などを解決するのも科学技術であることを指導するべき。</li> <li>○ 小学校の情報教育について、教育課程でどのように整理するか。</li> <li>○ 情報教育については小・中・高での内容の重複を整理し、系統的な内容にすることが必要。</li> <li>○ ICTの進歩が急速なので、指導に導入しやすいようにするとともに、基本的な情報モラルやリテラシーを明確にして、各教科等で指導されるようにすべき。</li> <li>○ 家庭科では、親子の共同体験を盛り込んではどうか。</li> </ul>			

<p>体育 保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分図られていない</li> <li>○ 積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化への指摘や、子どもの体力低下などが深刻な問題</li> <li>○ 保健は、「心身の健康」、「環境と健康」、「安全」とともに発育・発達、人の体の基本的な機能など、必要な知識を身に付けさせる必要</li> <li>○ 自らの健康を適切に管理し、改善する資質や能力の育成を充実するため、保健の内容や開始時期の検討が必要</li> <li>○ 生活習慣の乱れは小学校低学年から始まっているため、学ぶ内容の開始時期も含めて幅広く吟味が必要</li> <li>○ 偏った栄養摂取、朝食欠食等の食生活の乱れや肥満傾向の増大</li> <li>○ 近年、子どもが被害者となる事件・事故が発生、子どもの生活の安全に対する懸念</li> <li>○ 児童生徒の体格が向上し性的成熟が早くなっているという指摘、性に関する情報の氾濫など、児童生徒を取り巻く社会環境の変化、若年層の性感染症の問題や人工妊娠中絶の問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生涯にわたって健やかな体を維持し、豊かなスポーツライフを実現するため、発達段階に応じて体育の内容を構造化</li> <li>○ 多くの領域の学習を十分させた上で、自らがさらに探求したい運動を選択できるよう選択制の在り方を検討（中学校）</li> <li>○ 保健の内容については、健康に関する指導内容の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生涯にわたり運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成に向け、発達段階に応じて指導内容を明確に示す</li> <li>○ 体力の向上に向けて、「体づくり運動」の開始時期や指導内容の明確化するとともに、「体づくり運動」以外の領域においても、より一層体力の向上を図るよう指導内容等を改善</li> <li>○ 自らの健康を適切に管理し、改善する資質や能力の育成を充実</li> <li>○ 学校教育全体での食育の推進を明確に示す</li> <li>○ 安全教育については、自他の危険予測・危険回避の能力を身に付け、実践することなど各教科等における指導内容を明確化</li> <li>○ 性教育については、発達段階を踏まえて各学校段階や各教科等における指導内容を明確化するとともに、集団的指導と個別的指導の連携を密にするために、指導に当たっては、発達段階を考慮すること、学校全体で取り組むこと、保護者の理解を得ることなどに配慮することを重視</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校体育では、運動の楽しさを味わわせることや基本となる体の動きづくり、各校種では学校教育活動全体の取組を重視し、地域社会との連携を大切にすべき。</li> <li>○ 限られた体育の時間だけでは、体力の向上は難しいので、休み時間や放課後の校庭を開放し、子どもたちを運動させることを検討してはどうか。</li> <li>○ 食育については関連教科を体系的に整理する必要がある。</li> <li>○ 性教育については、生殖の仕組みなどよりも性衝動をどうコントロールするかを教えるべき。</li> </ul>			
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少等の中、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下</li> <li>○ 道徳の時間の指導が形式化して実効が上がっていないとの指摘、学年が上がるにつれ児童生徒の受け止めがよくない</li> <li>○ 学校・学年の段階等を踏まえた道徳教育の重点がみえにくく、教育活動全体を通じた指導や、道徳の時間を含めた相互の関連が不十分、教師が理解しにくい内容や指導しにくい内容があるとの指摘</li> <li>○ 道徳教育は、教育活動全体を通じて行われているが、それを意識した指導が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人間尊重の精神と生命への畏敬の念、健全な自尊感情をもち、主体的に生き、社会の発展に貢献できる力の基盤となる道徳性の育成を重視</li> <li>○ 発達の段階に応じて、より効果的な教育を行うため、小学校段階と中学校段階の道徳教育の目標・内容などを見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 善悪の判断など基本的な道徳的価値観の形成（小学校）や、人間としての生き方（中学校）など学校段階ごとに道徳の指導の特色を明確化</li> <li>○ 基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度などを育成する観点から、学校・学年段階ごとに重点を示す</li> <li>○ 道徳教育主担当の設置、具体性のある全体計画の作成、小・中学校における授業公開の促進</li> <li>○ 集団宿泊活動（小学校）、職場体験活動（中学校）、社会奉仕体験活動（高校）といった道徳性の育成に資する体験活動を一層推進</li> <li>○ 学校と家庭や地域社会が共に取り組む体制や実践活動の充実</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 倫理的行動を外側から規定するものとしての社会的ルールを体験的に理解するための指導、いじめをしてしまう心の仕組みを知るような指導を取り入れる必要。</li> <li>○ 読書により道徳的なことを考えていくことを学習指導要領に記述すべきではないか。</li> <li>○ 中学校では、道徳という名称に教師も生徒も抵抗があるとすれば、品川区の市民科の例も参考に、人間科や人生科への改善も検討する必要。</li> <li>○ 高校にも道徳の時間が必要であり、恥の文化、もったいない、奉仕などについて教えるべき。</li> <li>○ 道徳、特別活動では、ディスカッションをする力を身につけてほしい。</li> <li>○ メディアとどう接するのか、モラルの観点からメディアをどう扱うかを教える必要。</li> <li>○ 道徳、特別活動、総合的な学習の時間は、それぞれのねらいを区別した上で分担や連携をすべき。</li> </ul>		
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別活動の指導が、児童生徒の豊かな心についての資質や能力の育成に十分つながっていない状況</li> <li>○ 生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分</li> <li>○ 小1プロブレム、中1ギャップなど集団への適応にかかわる問題</li> <li>○ 学習指導要領では、特別活動全体の目標は示しているが、各内容ごとの目標は示していないため、活動を通してどのような力を育てるかが不明確で、総合的な学習の時間などとの教育活動の重なりも指摘</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒が好ましい人間関係を築き、協力して、学校を中心とするよりよい生活を築こうとする態度や能力を確実に育成</li> <li>○ 人間関係を形成する力、社会に参画する力や自治的能力の育成を重視</li> <li>○ 各内容を通して育てたい態度、能力をそれぞれ目標として示す</li> <li>○ 発達段階（小学校低・中・高、中・高）ごとに重点化して内容を示す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級活動やホームルーム活動について、学級や学校生活の充実と向上、集団生活への適応や生徒指導、現在及び将来の生き方などを含めた学業や進路に関する指導（中高）といった観点から類型を設け、より具体的に内容を示す</li> <li>○ 小1プロブレムや中1ギャップといった集団の適応に関わる問題への対応を重視して各学校段階の第1学年の学級活動の時間を重点的運用</li> <li>○ 社会的自立を進めていくために、「異年齢集団による活動」を推進、こうした観点から、児童会・生徒会活動の活性化を図るよう具体的な活動例を示す</li> <li>○ 豊かな人間性や社会性を実践を通してはぐくむため、学校行事において直接的な体験活動を一層重視</li> <li>○ 交流体験、自然の中などでの集団宿泊体験（小学校）、職場体験、文化的体験（中学校）、奉仕体験、就業体験（高校）</li> <li>○ 体験活動の内容に即して一定期間の確保が必要</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 掃除は教育上重要であり、学習指導要領に位置付けてもいいのではないか。</li> <li>○ キャリアスタートウィークなどの5日以上職場体験活動を教育課程上でどのように位置づけるか。</li> <li>○ 道徳、特別活動、総合的な学習の時間は、それぞれのねらいを区別した上で分担や連携をすべき。（再掲）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習活動が体験だけで終わっていること、思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が行われていない</li> <li>○ 科学的な見方・考え方の基礎を養うための指導の充実を図る必要</li> <li>○ 子どもの生活の安全・安心に対する懸念や、自然事象に接する機会が乏しい</li> <li>○ 小1プロブレムなど、学校生活への適応を図ることが難しい子どもの実態</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児教育との連携を図り、異年齢での教育活動を一層推進</li> <li>○ 科学的な見方・考え方の基礎を養う観点から、自然の不思議さや面白さを実感する活動の取り入れ</li> <li>○ 通学路の様子を調べ、安全な登下校に関する指導を充実</li> <li>○ 生命の尊さを実感させるため、動植物の飼育・栽培に関する指導を充実</li> <li>○ 体験活動を通して得られた気づきの質を高め、体験を一層充実したものにするために、例えば、見つける、比べる、たとえるなどの学習活動を示す</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼小の連携の観点から、生活科に子どもたちがグループで共通の目標を持ち協力しながら行動する「協同的な学び」を取り入れてはどうか。</li> <li>○ 生活科では、気づきや関心だけに終わるのではなく、「なぜ」と考える習慣をつける指導が必要。</li> </ul>		

<p>総合的な学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況</li> <li>○ 小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取組が重複</li> <li>○ 教科の補充・発展学習や学校行事などと混同された実践が行われている例も見られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科横断的・総合的な学習を行うことをより明確化</li> <li>○ 総合的な学習の時間のねらいを明確にするため、実社会や実生活とのかかわりを重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなど、育てたい力の視点を例示したうえで、具体的な育てたい力は、各学校で設定</li> <li>○ 小学校では地域の文化や伝統に関する学習活動、中学校では仕事や自己の将来を考える学習活動などを例示</li> <li>○ 優れた事例の情報提供やコーディネートの育成など支援策の充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料の集め方、データの分析の仕方など学習の方法論を総合的な学習の時間の中で教えてはどうか。</li> <li>○ 総合的な学習の時間には、小学校3、4年生では教科に未分化な状態での体験活動があり、小学校高学年以上では教科横断的に探究する活動があるため、児童生徒の発達段階を踏まえた整理を行うべきではないか。</li> <li>○ 学習指導要領の総則の中に総合的な学習の時間は位置付けられているが、章立てにするなど、学習指導要領上の構成を検討すべき。</li> <li>○ 国際理解、情報、環境、福祉・健康など課題の例示については、教科との関連を明確にすることを加えるべき。</li> <li>○ 例示として今日的課題を示しているが、これを義務教育の間に子どもに社会的問題として認識させておく必要があることから、その取扱いについて検討する必要。</li> <li>○ 中学校では仕事や自己の将来を考える学習を総合的な学習の時間の例示に加える必要。</li> <li>○ 総合的な学習の時間の内容は環境・平和・国際・福祉に収斂しつつあるが、ねらいを明確化しすぎると逆に教科化していくのではないか。</li> <li>○ 総合的な学習の時間の日数や時数については、各学校や地域の実情に応じて裁量に委ねる方向で検討していくべきではないか。</li> <li>○ 総合的な学習の時間と生活科との関係を整理する必要。</li> <li>○ 道徳、特別活動、総合的な学習の時間は、それぞれのねらいを区別した上で分担や連携をすべき。(再掲)</li> <li>○ 教科と総合的な学習の時間との連携は大事であるが、教科に偏らないようにすべき。</li> <li>○ 職場体験を5日間行うとなると30時間の確保が必要で、総合的な学習の時間として実施しているのが現状。教育課程上の位置づけを再考する必要。</li> </ul>			